令和元年７月１日

各　位

山形市野草園　：　山形市大字神尾 832-3
電話　023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ

野草園の「アジサイロード」に咲くエゾアジサイ（前年の７月上旬に撮影）

エゾアジサイ（アジサイ科）
日本固有種で、北海道と本州北部及び日本海側の山地の斜面や沢沿いに生えます。葉は先のとがった楕円形で、縁に粗い鋸歯があり、対生します。花は青淡色の小さな両性花の集まりの周りに、花弁４個の装飾花を付けます。花の色は青色系統と赤色系統があります。

梅雨の季節に入り、野草園の夏の花たちは美しい姿を見せてくれています。園内のスギ林を東西に走る「アジサイロード」の両側には水色のエゾアジサイの花が咲き誇っています。一方「ひょうたん池」にはたくさんのオゼコウホネとスイレンが咲き、湿地の「水辺の花コーナー」では赤紫色のノハナショウブが鮮やかに咲いています。

夜には町中では見ることの出来ないホタルたちが、野草園内の小川と湿地に現れます。そのため６月の最後の週と７月の第１週に『ホタル観察会』を行い、夏の夜の自然の神秘を楽しみます。

暑い夏が近づいていますが、市街地と比較すると３度～５度くらい涼しい野草園です。ぜひ美しい夏の花を見ながら園内を散策して下さい。

野草園の７月のイベント予定

【開園時間の延長】　６月１日～８月３１日は、９：００～１８：００まで開園します。
尚、入園は１７：００までです。

【市制施行１３０周年記念無料開放日】　７月７日（日）・・・入園料が無料になります。

◆【ホタル観察会】

〇日　時　　６／２８(金)、２９(土)、３０(日)　　７／５（金)、６(土)、７(日)
　　１９：３０～２０：３０　（受付は１９：００～１９：３０）
〇内　容　　ゲンジボタルとヘイケボタルを観察し、夏の夜を楽しむ。
〇場　所　　野草園内　「大平沼」北側の小川、または「ミズバショウの谷」
〇対　象　　各日、先着８０名程　　〇参加費　　入園料込３００円（高校生以下無料）
〇申込み　　電話で野草園まで　℡　０２３－６３４－４１２０

◆【ガイドウォーキング 】

〇日　時　　７/７（日）、１４（日）、１５（月・海の日）、２１（日）、２８（日）
　　①10:00～11:00　②11:00～12:00　③13:00～14:00　④14:00～15:00
〇内　容　　ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。
　　参加費は入園料のみです。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もします。
〇場　所　　野草園内全域

◆【絶滅危惧植物パネル展】　　７/１３（土）～８/１８(日)　　９：００～１８：００
〇内　容　　絶滅が危惧されている植物の写真パネルを展示。
〇場　所　　野草園自然学習センター内　　〇費　用　　入園料込３００円（高校生以下無料）

◆【夏休み対策！木工工作教室】

〇日　時　　７／２１(日)、８／１２(月)　１０：００～１２：００
〇講　師　　植物案内ボランティア、野草園職員
〇内　容　　野草園の木の枝や道具を使って自由に工作。
〇場　所　　自然学習センター　ピロティ周辺
〇参加費　　入園料込３００円（高校生以下無料）
〇対　象　　小学生親子　各日先着２０組
〇申込み　　電話で野草園まで：℡ 023-634-4120

◆【星空を見る会】

〇日　時　　７／２１(日)、８／１２(月)　　１９:００～２０:３０（受付：１８：３０～１９：００）
〇講　師　　「ＮＰＯ法人　小さな天文学者の会」加藤 到 氏
〇内　容　　夏の夜空に見られる星座の見つけ方を説明してもらったり、天体望遠鏡で惑星を見たり、
　　また映像を視聴し、宇宙についての理解を深めて頂きます。
〇場　所　　自然学習センター前の中央広場
〇対　象　　各日先着２５名　　〇参加費　入園料込３００円（高校生以下無料）
〇持ち物　　虫よけ、レジャーシート
〇申込み　　電話で野草園まで：℡ 023-634-4120　　＊雨天の場合は中止になります。

●●●7月前半に見られる主な花たち●●●

オゼコウホネ（スイレン科）

高山や北の地方の池や沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を１個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別できます。

スイレン（スイレン科）

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込みます。花の花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名は「朝に花が開いて夜に閉じる」つまり、睡る蓮ということでつきました。

キリンソウ(ベンケイソウ科)

海岸の岩上や山地の草原、林縁などに生える多年草です。葉は一般に互生し倒卵形または長楕円形で先端はやや丸く、基部はくさび形でほとんど柄はありません。茎の先に多数の黄色い花をつけます。花弁は５個で披針形、先は尖ります。名は黄色い花が輪になって咲くからつけられたようです。

キンコウカ(キンコウカ科)

山地帯～高山帯の湿地や湿原に生える多年草で、群生して咲きます。葉は中脈から折りたたまれています。花茎は高さ２０～４０ｃｍで総状に多数の黄色い花をつけます。開花すると雄しべの花糸に縮れ毛が密生します。花後、花被片は緑色になります。名は花色から「金光花（キンコウカ）」とつけられたようです。

ノハナショウブ（アヤメ科）

山野の草原や湿原に生える多年草でハナショウブの原種であることから名がつけられたようです。葉の幅が狭く、中肋（葉の中央にある葉脈）が太くはっきりした筋となる特徴があります。赤紫色の花を開き基部に黄色の斑紋があります。全体が細長く、外花被片は楕円形、内花被片は小さなへら形で直立していることで、ハナショウブとは区別できます。

シモツケ(バラ科)

山地の日当りのよいところに生える高さ 1m程になる落葉低木です。枝は褐色。葉は互生して形は卵形，縁に鋸歯があります。花は散房状にたくさんの小さな淡い紅色の 5 弁花をつけます。たくさんの雄しべでフワッとした花姿に見えます。名は生育地の下野国（現在の栃木県）からつけられたようです。

アカバナシモツケ（バラ科）

山の日当たりの良い草地に生える、草丈５０～８０ｃｍの多年草です。葉は掌状に深く５～７裂し鋸歯があります。茎先に集散花序をつくり紅色の小花をたくさんつけます。小花の花弁は４個で多くの雄しべが花から突き出てフワッとした感じがします。名の由来は花がシモツケと似ているからです。

アワモリショウマ（ユキノシタ科）

九州～近畿地方の山地などに自生しますが、観賞用に庭園にも植えられる多年生草本です。葉は２～４回３出複葉で硬くて光沢があります。茎の上部に円錐花序をつくり、淡紅色の小花を多数つけます。小花が泡を盛ったように多数つく姿に名前の由来があるようです。

ラベンダー(シソ科)

地中海沿岸地方原産の常緑小低木です。茎は小枝を多く分枝し、葉は線状被針形です。夏、枝先に花穂をつけ、淡紫色の唇形花を多数開きます。数あるハーブの中でも、人気の高いのが本種で、草全体から良い香りを放つため「香りの女王」とも呼ばれます。花を蒸留して揮発性のラベンダー油をとり、香料・薬用とするそうです。

ウツボグサ(シソ科)

各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。茎の断面は四角形で、直立かやや斜めに立ち上がります。葉は対生し長楕円状披針形です。茎の先に花穂をつけ、紫色の唇形花を密につけます。うつぼ（靫）とは、昔武士が弓矢を入れて背負った武具のことで、本種の花穂がそれに似ているので名がついたようです。

オカトラノオ(サクラソウ科)

山地や丘陵などの日当たりのよい草地に生える多年草です。茎は円柱形で直立し、ほとんど分岐しないで基部は紅色をおびます。葉は互生し短い柄があり長楕円状披針形です。茎の頂きに一方に傾いた総状花序を作り、多数の小さな白い花を密につけます。名は「岡虎の尾」で、岡によく見られ花穂がトラの尾に似ることによるそうです。

メタカラコウ(キク科)

深山の湿地に生える多年草で、茎は直立して枝分かれしません。葉には長い柄があり、三角状心形です。茎の先に黄色い花を総状につけ、花は数枚の舌状花があり、中央に筒状花が集まっています。名は、雌タカラコウで、雄タカラコウよりもやさしい作りであることによります。

ホンアジサイ(アジサイ科)

「アジサイ」は、アジサイ属植物の一部の総称で、他との区別のため、「ホンアジサイ」と呼ばれます。原種は日本に自生するガクアジサイで、萼が大きく発達した装飾花を持ち、花序の周辺部を縁取るように並び、「額咲き」と呼ばれます。本種のように花序が球形ですべて装飾花となったアジサイは「手まり咲き」と呼ばれます。

ヤナギラン(アカバナ科)

山地の日当たりのよいところに生える多年草です。茎は直立して分枝せず、葉は互生し披針形で葉柄はなく裏面はやや白色を帯びています。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、だんだん下から上へ咲き上がります。先駆植物で、山野が工事跡などで荒れると進出しますが、木が茂ると姿を消します。名は花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることによります。

キクイモモドキ(キク科)

日当たりの良い所に生育する多年草です。黄色の舌状花と筒状花からつくられ、まるで小さなヒマワリのような花です。繁殖力が強く園内のあちこちで咲いています。ヒマワリ属のキクイモ（菊芋）によく似ているので名がつけられたようですが、根茎の先は芋になりません。別名はヒメヒマワリです。

ヨツバヒヨドリ(キク科)

北海道～本州中部以北の山地に生える多年草です。背丈は１ｍ前後で、長楕円形の葉を３～６枚輪生する点が特徴です。茎頂に淡紅色か白色の小さな頭状花を多数つけます。渡りをする蝶の「アサギマダラ」が吸蜜する植物の１つです。

オオバジャノヒゲ（キジカクシ科）

山地の林内に生える多年草です。まがり気味の花茎を出して、その上に淡紫色の小さな花をつけます。まれに白花もあるそうです。花には細い花柄があり、２～３個ずつ集まって横や下を向きます。種子は濃い青色に熟します。ジャノヒゲに比べて葉は幅広いので見分けがつきます。名は、葉を竜（蛇）のヒゲにたとえたものです。

クガイソウ（オオバコ科）

山地の日当たりのよい草地に生える多年草です。葉は長楕円状披針形で、４～８枚が輪生して数層となります。茎の頂きに穂のような長い総状花序をだし、多数の花を開きます。青紫色の花は下の方から順次上の方に咲いていきます。名の由来は多層に輪生する葉の様子からつけられたようです。

カライトソウ(バラ科)

山の草原に自生します。草丈は 50cm～1m、茎は上の方でよく枝分かれします。葉は楕円形で、フチに波形のギザギザが入ります。花茎に4～10cmの花穂がつき、先端から根元に向かって小花が咲き進みます。目立つ花びらはもっていませんが、雄しべ(花糸)が紅紫色で 1cm ほどの長さがあり、花の外に突出したような感じになります。

クマノミズキ（ミズキ科）

山地の林に生え、高さは 8～12m です。葉は枝に対生し、形は楕円形で縁は全縁です。裏面はやや粉白色です。花期はミズキより１ヶ月遅く、新枝の先に散房花序をつけます。たくさんの白色の小さな花は 4 弁花です。秋になると果実は黒く熟し、果柄は赤く珊瑚のようにも見えます。名は三重県熊野に産するミズキの意味です。